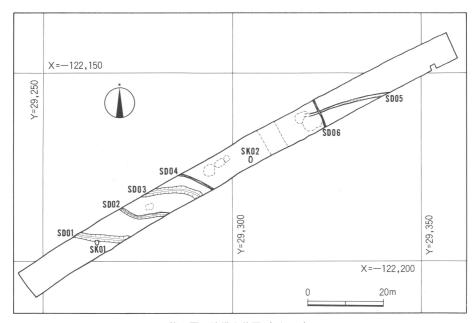
すぎ杉 やま 山 じょう 跡 城

国道151号線新城バイパスの建設工事の事前調査として、杉山端城址に近接する地区の発 掘調査を行なう。端城は、豊川右岸の河岸段丘中位面の奥部に立地し、盛土・溝による方 形区画を伴う中世の居館跡が想定されている。昭和61・62年度に国道301号線を隔てた杉山 遺跡で鎌倉時代から室町時代にかけての屋敷地と推定される遺構群が検出された。今回の 調査では、中世・近世の溝、土坑が確認され、最も南に位置するSD01は、灰釉系陶器(山

端城の推定区画の北辺に平行することから、 何らかの関連が推測される。しかし、全般 に遺構は希薄で、中世居館跡に確実に伴う 遺構は確認できなかった。なお、SD02、 03は中世末から近世初期、SD04~06・S K01・02は近世以降の時期で、いずれも耕 作等に伴う遺構である。 (酒井俊彦)



第 | 図 調査区全景(北東より)



第2図 遺構全体図(1/1000)